

★「風水害被害防止のために、どんな人が何をしているのだろう？」
学校教師による防災教育を社会科で実施

2月22日武雄河川事務所から提供した指導計画案をもとに、武雄市立山内西小学校5年生「社会」の授業で初めて防災教育を実施して頂きました。

武雄河川事務所では、「指導計画案」や国交省が持っている「自分たちが住んでいる六角川松浦川に関する資料」を提供し、小学5年生の「理科」「社会」授業の中で先生自ら防災教育を行って頂くという試みを今年度より実施しています。

11月に「理科」授業で2校（2市3クラス）に取り組んで頂き、2・3月に「社会」授業で2校（2市6クラス）で取り組んで頂く予定です。
今回初めての社会の授業を各校の社会科部会主任教師や教育委員会の方々と一緒に拝見させて頂きました。

単元「自然災害の防止」の中で武雄河川事務所が提供した資料を使用し、自分たちの身近な所でも災害が起こっている事、災害を防止するための対策や働いている人たちについて学ぶ、災害時に自分たちが出来る事が何かを考えて頂き、災害が身近な事である事を理解し、防災意識を高めてもらう事を目標としています。

22日の授業では「風水害防止のために働く人々が普段どのような活動をしているか？」について学びました。
授業は、提供した資料の中から教師自らが抽出した「身近な」写真を電子黒板で表示し、子ども達に考えさせながら進められていきました。
沢山の写真を見ながらの授業は子ども達の興味を引いた様で、写真を見ると、「知ってる！」「見たことある！」という言葉が聞かれました。

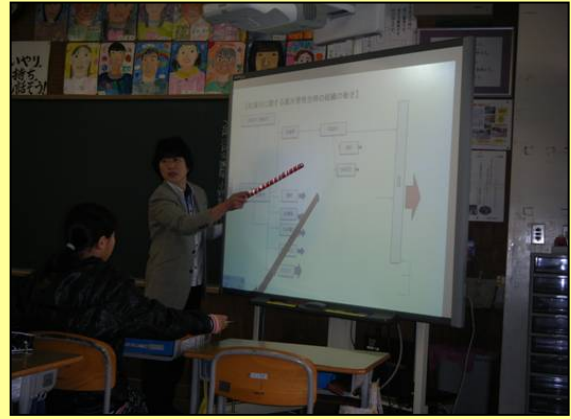
授業の後反省会が行われ、「資料が多いので教師自らが言葉や資料を選んで進めて行く必要がある」「身近な災害の写真を見る事で、子ども達は身をもって考えてくれる」という言葉を頂きました。

武雄河川事務所では、今回の授業の反省をもとに教師の方々が使いやすくなるよう今後修正し、次年度以降につなげていきたいと思えます。

本日のめあて「風水害防止のために働いている人を知ろう」



電子黒板を使用しての授業



「風水害防止のために働く人々は普段どのような活動をしているか」について発表



社会科部会主任教師、教育委員会による授業見学



黒板での板書